聖雪

発行所
札幌聖心女子学院
札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
TEL (011) 611－9231

すべてのいのちを守るために
～無関心のグローバル化の中で

校長　齊藤隆浩

百合の行列で始まった後期も一ヶ月が過ぎようとしています。

振り返ると、今年度は、新型コロナ肺炎感染防止で国の緊急事態宣言の中、春の始業式後、臨時休校となり、その間オンライン授業等に取り組んだ後、分散登校を経て五月末にようやく対面授業を開始することができました。夏季休業も例年より短縮した期間での実施となるなど異例続きの年となりました。

しかし、オンライン授業や海外を含めた他地域とのWeb上でのやり取りなど、新しい形での交流・情報交換等も進めることができています。特に夏季休業中には、シアトル聖心とオンライン授業を共催し、国内の姉妹校生を招き、本校中高生ともども世界の問題に目を向け、英語力を磨く機会となりました。高三生は、核兵器廃絶を訴えるNGOの、アメリカと日本各地をWeb上で結んだZOOMによる交流にピアノ演奏で出演したり、またJCI（日本青年会議所）主催のワールドWebサミットに、国連大使として参加するなど活躍しました。さらに、「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」にオンラインで参加した生徒たちが、被曝体験のお話を聞き、平和について深く考えるなど、様々なイベントに自ら参加し、積極的に取り組みました。

ただ一方、このコロナ禍にあり、学校にとっても大切な行事である聖ソフィア祭、友愛セールが中止となったほか、海外・道内外での研修の成果を皆で分かち合う体験学習報告会、修学旅行や見学旅行、修養会の実施時期の延期など、例年通りの行事等の実施が、困難な状況にありました。

その中で、何とか中止を避け、クリエイティブに、新しいことが実現できないか、と姉妹会執行部をはじめ聖ソフィア祭委員会が知恵を絞り、皆が少しでも楽しめるような行事を企画・実行しました。感染予防対策にも十分配慮しながらの企画・実施となり、上級生としての成長を感じるとともに、その上級生の姿を見ている下級生にとっても、次の自分たちの成長につながっていくことを考えると、札幌聖心女子学院での学びは改めて生徒たちにとって貴重なものであると感じる次第です。

さて、この巻頭言の標題にある「すべてのいのちを守るために」という言葉は、フランシスコ教皇様が昨年十一月に日本に来られたときのテーマでした。このテーマこそ、コロナ禍の今、私たちの心に強く響く呼びかけとなっています。教皇様の回勅『ラウダート・シ』は私たちの「共に暮らす家」である地球が、どんどん危険な状態になっていることに世界の注意を喚起するものでした。

今年はこの回勅が書かれて五周年であると同時に、世界的なパンデミックという深刻な情勢にある中で、教皇様は続けて「大地の叫びと貧しい人の叫び」に耳を傾けるように促していらっしゃいます。

札幌聖心女子学院では、生徒たちがこれまでもSDGs持続可能な開発目標の十七の到達目標を意識し、日々GIやアクションプランに取り組んでいます。私たち教職員も、「ともに暮らす家」である地球の叫びを聞き、その傷をいやし、すべての被造物を尊重することができるよう、九月から十月にかけて毎朝、「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」を唱えておりました。

その祈りの一節に次のような言葉があります。「無関心を遠ざけ、貧しい人や弱い人を支え、ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、わたしたちの役割を示してください。すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくために、聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、あなたの愛の道具として遣わしてください。」

教皇様はしばしば「無関心のグローバル化」について警告され、訪日中にも若者たちに「無関心と闘う力のある文化をつくっていくために、働き、歩むこと」について話されました。

傷ついた人々と地球の叫びを無関心にやり過ごす風潮が広がる中で、どんなにささやかなことでも行動を起こせば、傷は癒され、いのちが守られます。

生徒たちは、「一度行動を始めれば、希望はどこにでも見出せる。行動によって希望をもたらそう。」とこれまでの学びをもとに呼びかけています。その呼びかけにこもる希望が、無関心に閉ざされた闇に光を灯しています。その光に導かれて進んでいきたいと思います。

宗教科　シスターヘンニ　オンライン講演会

オンライン講演会を聞いて

七月十七日(金)にインドネシア出身の聖心会のシスターヘンニが講演をしてくださいました。シスターヘンニはインドネシアの歴史や自然などの基本情報から、聖心会の活動、コロナ禍におけるシスター方の活動などについて時にユーモアを交えてお話しくださいました。私が特に印象に残ったことはインドネシアの宗教についてです。インドネシアの国家原則では唯一神への信仰が定められているため、無宗教であることは認められていないといいます。日本との宗教観の違いに驚き、興味深く感じました。新型コロナウイルスの影響により、オンライン講演会となってしまいましたが、インドネシアについて知ることができ、大変貴重な時間でした。

（高三　吉田　真季）

平和について考えた講演会

今回のインドネシアのシスターの講話を聴いて心に残ったことが二つあります。一つは、インドネシアの国についてです。シスターはインドネシアの宗教や教育についてなど様々なことをお話しくださいました。私はインドネシアに行ったことがないのですが、今回の講話を聴いて「行ってみたい」という気持ちが強くなりました。二つ目は、「希望」と「平和」はつながっているということです。平和になるように行動していくことによって希望が生まれるというお話が心に残りました。

シスターがしてくださった貴重なお話を心にとめ、世界の平和のために何ができるのかを日々考えながら過ごしていきたいと思いました。

（中三　西　恵里奈）

北海道盲導犬協会講習会

盲導犬と世の中

七月十八日(土)に盲導犬協会の講習を受けました。私は今まで、盲導犬について詳しく知りませんでした。この講習で色々なことが分かりました。

視覚障害者の方が、点字ブロックと白杖を使って人ごみの中を歩いているのを見て、私は「本当に大丈夫かな。なにか助けることはできないのかな。」と思っていました。盲導犬を連れて歩くことができれば、なに不自由なく外を歩けますし、点字ブロックがない場所にも行けるようになります。それでも、盲導犬の入店拒否のお店があり、まだまだ視覚障害者の方々には不自由です。盲導犬を育ててもらうにも、盲導犬の素質がある犬の数が足りません。

盲導犬の入店許可がおりたり視覚障害者の方々の手に盲導犬が行きわたるような世の中になってほしいです。

（中一　松尾　瑠南）

中二・校外学習

千歳川の清流下り・千歳川水族館

私たち中学二年生は七月十六日(木)に千歳川の清流下りをし、サケのふるさと千歳水族館へ行ってまいりました。

千歳川の清流下りでは、普段はあまり関わることのない自然を全身で感じることができました。当日は気温がちょうど良く、川の水で楽しく遊ぶことができました。

水族館では、千歳川にいる淡水魚や北海道の川の近くにいる生物を観察してきました。近くを流れている千歳川の水中を直接見ることのできる施設もあってとても楽しかったです。また、今、北海道にいるカエルの種類の半分以上が元はここにいなかったものだと知って驚きました。

今回の体験で私は、自然とふれあうことの楽しさと大切さを学ぶことができました。

（中二　並川　琴美）

原爆が落ちた日のこと

～二〇二〇年オンライン ピースアクションinヒロシマ～

私は、八月四日(火)、五日(水)に行われた広島のピースアクションinヒロシマに参加しました。「原爆が落ちると昼が夜になって人はお化けになる。」という言葉が印象に残りました。この言葉は当時二歳の女の子が原子爆弾の怖さを表現したものです。この言葉からも分かるように、被爆者の方々は、一発の原子爆弾で人間が人間ではなくなるくらいのひどいけがを負い、私たちには到底想像もつかない体験をしたのだと改めて痛感しました。また、原子爆弾によって大切な人を失った人は、自分は何もできなかったという無力さ、罪悪感をどこか持って生きていると感じました。自分の言葉で、原子爆弾の怖さ、命の尊さを伝え続けていきたいです。

（高二　中西　舞）

JCI 少年少女国連大使 国際協力を学んだ研修

私は八月一日(土)から八日(土)まで、JCIのWorld Web Summitに参加しました。このプログラムはコロナ禍にみまわれた現在、どのような国際協力が必要であるかを学ぶものでした。国内から高校生十二名、海外からも多くの学生が参加したこの研修は使用言語が英語であることもあり、コミュニケーションの場面や講義の場面で困ることが時々ありました。そうした時には日本人メンバーや同じグループの外国人メンバーが助けてくれ、充実した研修にすることができました。

マレーシアやバングラデシュのコロナ被害と対策の話を聞き、どういった方法で国際協力ができるのかを知ることもできました。またグループワークの場面ではミニゲームを通して柔軟な考え方や創造性の育て方も身につけることができました。

今後は新しく出来た国内外のつながりを活かし、さらに活動の輪を広げたいと思っています。まずは校内をはじめ札幌を拠点に啓発活動をしていく予定です。私の世界を広げてくれたこの研修に感謝しています。

（高三　焼田　梨々花）

環境科学ミーティング

改めて考える ヒグマとの共生

七月一日(水)、新型コロナウイルスによる休校で今年度第一回目となる課題研究ミーティングが行われました。札幌市環境局環境都市推進部の坂田一人様にお越しいただき、ヒグマとの共生についてのお話を伺いました。

ヒグマが出没した時の対応は難しく、麻酔をかけると町なかで暴れ回ったり、山に返すとまた別の場所に出没してしまったりする可能性があります。だからといって出没する度に殺すという訳にもいきません。そのため、庭に電気柵を設置するなどヒグマを引き寄せない環境を作り、ヒグマの生態を私達一人ひとりが知る必要があります。ヒグマとの共生のために私達に出来ることを考え、行っていきたいと思いました。

（高二　武部　彩美）

人間関係ミーティング

マスコミで働くという選択

～私が新聞記者になるまで～

八月二十六日(水)に朝日新聞の記者、川村さくらさんをお招きし、仕事内容、大学進学、記者を志したきっかけ、記者の世界で感じた違和感などについてお話をうかがいました。心に残っているのは、「プロ意識を持って情報を発信していく」という川村さんの言葉です。近年は誰でも簡単にSNSなどのツールで情報を発信することができます。どの情報が正しいのか分からない時代だからこそ、自分達新聞記者が責任を持って仕事を行うとおっしゃっていました。年の近い社会人のお話を聞けて、将来の仕事に対するイメージが広がる貴重な体験となりました。

（高一　植木　望結）

全校講話

ｅーネット
インターネット・ＳＮＳとの「上手」な関わり方

私たちは七月三十日(木)に、インターネット・ＳＮＳとの関わり方についての講話を拝聴しました。

インターネット上の情報を鵜呑みにしたり、ＳＮＳ上に個人情報を載せたりすることの危険と私たち一人ひとりが発信者であるという自覚を持つことの大切さを改めて学ぶことができました。今は、コロナウイルスの影響からオンライン授業が開始されるなど、インターネット・ＳＮＳを利用する時間が増えている人も多くいます。自分の生活を今一度見直し、自らを律してインターネットやＳＮＳと適度な距離を保っていくことがより重要視されていくと思います。これからは使用時間を制限し、情報の信頼性を確認して関わっていきたいです。

（高二　廣瀬　端乃）

全校講話

命の授業
命の重みを実感し祈る今

私たちは九月三十日(水)に、全校講話「命の大切さを学ぶ教室」を拝聴しました。突然の事故で大切な人を失う苦しみは私たちの想像など及ばないほど壮絶なものです。宗教の授業でいつもお世話になっている真島先生が、そのように辛い経験をなさっていたことを知り、それまで一度も伺ったことのないお話を聞き、様々な意味で胸が痛みました。

あと少しで夢を叶えるはずだったその日に、ほんのわずかな時間で一生分の目標が絶たれてしまった息子である以明（いざや）さんの無念さは計り知れません。大切な人生を壊した加害者が既に釈放されているということに、私は司法の限界を感じざるを得ませんでした。しかし先生は、許せるのは息子しかいないとおっしゃっていました。取り返しのつかない過ちをしないために、失敗を生かす必要があります。その思いと共に新たな出発を祈る秋となりました。

（高三　児玉　優子）

ＳＤＧｓ目標達成のために

私たち高校一年生は八月三十一日（月）にＧＩ（グローバルイシューズ）の授業でＳＤＧｓの目標達成のためのスピーチ発表会を行いました。事前に行ったマイクの使い方の練習を生かし、皆それぞれの伝えたいことを約二分間の限られた時間内にまとめ、発表しました。同じ目標でも興味を持った活動が違ったり、お互いの話を熱心に聞き、意見を共有し、たくさんの考えを吸収することも出来ました。今回のスピーチ発表会では誰でも取り組むことができるエシカル消費やおにぎりアクションなどたくさんの活動を知ることができました。そして、ＳＤＧｓの目標達成のために出来る行動をしていきたいと思いました。

（高一　皆川　千乃）

有機JASマーク

出典：農林水産省webサイト
https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/index.html

「サスティナブル・ラベル」
エシカル（環境保全）に関するラベルの一つ。

北海道シェイクアウトを体験して
Drop Cover Hold on

私たちは九月一日（火）の防災の日に、札幌シェイクアウトを体験しました。授業を受けている途中に緊急地震速報が入り、机の下に隠れました。放送の後は沈黙の中「Drop Cover Hold on」を守り隠れることが出来ました。

今年の九月六日で胆振東部地震から二年が経ちましたが、当時私たちも被災者になる経験をしました。私たちは今回事前にシェイクアウトが行われることが知らされた中での体験でしたが、本当に地震が起きるときには事前の知らせはありません。胆振東部地震のときの私はこわくてすぐには動くことができませんでした。このような機会にしっかりと訓練を受け本当の地震のときに備えていくことが大切だと改めて感じました。そして準備をすることで人災を減らすことができると思いました。

また、防災の日をきっかけに家に備蓄してある食べ物や飲み物の消費期限を確認することも忘れないように心掛けたいと思います。

（高一　菅原　花未）